



2012年5月14日
公益財団法人ヤマト福祉財団

〔東西しらかわ農業協同組合 地域農業再生基幹施設緊急整備事業〕
東西地域ごとに新しい農業倉庫の建設を計画
東部共同農業倉庫の新築工事起工式が行われました

5月8日、「JA東西しらかわ東部共同農業倉庫」の新築工事起工式が行われました。これは、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富 慶二、以下ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第4次助成先の一つである東西しらかわ農業協同組合が、助成金2億7000万円を活用して建設を進めている新しい農業倉庫の一つです。

東西しらかわ農業協同組合は、福島県の県南に位置する白河市、矢吹町、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村一帯に住む約1万人の農業生産者の支援を行っています。平成15年にはオリジナルブランド米を開発、米の海外輸出にも力を注いできました。しかし、震災により5つの農業倉庫すべてが損壊。さらに原発事故による風評被害にも苦しめられています。安心・美味しいお米のイメージを取り戻すには、農業倉庫の再編・集約化が急務。そこで東西二つの地域に各1ヶ所の新倉庫を建設して従来の機能を集約することにしました。新しい農業倉庫は、いままで常温管理しかできなかった米石倉庫に比べ低温管理で品質向上、さらに統合することで物流の合理化も図れます。起工式で鈴木代表理事組合長は「この倉庫の完成で、農業生産者がみんなでもう一度がんばれる気持ちを取り戻せるように願っています」と挨拶をされました。



東部地域の農業倉庫 (943 m²) は10月の竣工予定です。
西部地域の農業倉庫 (1155 m²) は来年1月に着工し、来年7月の竣工予定です。



多くの関係者が起工式に参加。この場所に東部共同農業倉庫が建設されます。



起工式で挨拶される東西しらかわ農業協同組合鈴木昭雄代表理事組合長



くわ入れを行う有富理事長